令和2年度　中間期自己評価書

愛南町立長月小学校

評　価　規　準　　A：目標を達成　B：8割以上達成　C：6割以上達成　D：6割未満

評価項目		評価指標及び目標値（期待される姿）	評定	学校による考察（◇）　改善方策（◆）	評価資料	個別評価	肯定率 4＋3	アンケート平均値（100%満点） 4	3	2	1	？
特色ある学校づくり	ふるさと学習の推進	地域の教育力や伝統・文化を生かしながら、人的・物的環境を活用したふるさと学習を推進し、長月のよさを知り、長月大好きな児童を育てている。 目標値：教職員・児童の90%以上が肯定 地域人材を取り入れた回数学期に5回以上	B	◇教職員に2評価があったり、4評価がなかったりする理由には、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために地域との交流ができにくかったり、5月末まで臨時休業となったりしたことが大きく関係していると思われる。それでも地域人材を活用しようとする意識の高さから、芋差しや夢の森探検を行ったり、児童は参加できなくても田植えを行ったりしたことから3評価が多かったと考えられる。児童は高評価が多く、住んでいる長月校区が好きで十分満足していると考えられる。 ◆2学期からも新型コロナウイルス感染症の影響を受けると考えられるため、行事を精選し（稲刈り・コスモスの種まき、運動会、コスモス祭り）、必要最低限の方に声を掛けながら地域人材を行っていくようにする。	教職員1	B	75	0	75	25	0	
					児童1	A	100	94	6	0	0	
					4/10田植え　5/7すいかの藁敷　5/13芋差し 6/18夢の森探検							
	ともに開かれた学校づくり	学校運営協議会での協議や熟議をもとに、地域とともに歩む開かれた学校づくりを推進している。 目標値：保護者の90%以上が肯定 熟議を基に、実践した回数（学期に1回以上）	A	◇新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために保護者にも十分に学校や学校運営協議会の様子を伝えることができにくかったにもかかわらず、高評価が多かった理由としては、子どもたちの学習や体験が地域の方の協力に支えられて成立していることを子どもを通じて理解しているからだと考えられる。また、毎日発信しているHPも保護者の理解につながっていると思われる。 ◆新型コロナウイルス感染症の予防対策を考えながらも、行事を行う上で可能な活動内容を学校運営協議会で協議し、地域力を生かした活動を行う。また、ホームページや学校だよりを通じて、学校運営協議会での協議内容を積極的に伝え、学校と家庭、地域の連携が密になるよう努めていく。	保護者1	A	100	71	29	0	0	0
確かな学力の定着と向上	対話的な学習の実践	互いの考えを聴き合ったり、根拠をもとに論理的に説明したりすることに視点を置いた、対話的な学びの授業改善に努めている。 目標値：教職員・児童・保護者の90%以上が肯定	B	◇保護者の2評価が多いのは、対話的な学習をしている場面を見る機会が少ないことが考えられる。教員は、本校の研究テーマに沿って、対話的な学習に積極的に取り組んでいるが、3評価が多いのは、少人数学級で対話的な学習の難しさ、やりにくさを感じていると考えられる。児童は、 対話的な学習の取組により、伝える大切さを実感し、積極的に伝えようという気持ちは高まっているものの、2・3評価が多いのは、まだ、自信のなさがあるのではないかと思われる。また、対話的な学びにより、自分の考えが深まったという実感も持てていないと考えられる。 ◆保護者に対話的な学習の取組を知ってもらうために、授業参観の時に、そのような活動を見ていただく機会を持つようにする。また、教員については、更に対話的な学びの研修を深めるとともに、オンラインによる他校との対話を実践したり、教員、教材との対話も行ったりと、多様な対話に取り組んでいくようにする。児童は、対話的な学びの積み重ねにより、自信を持って自分の考えを表現できるようにさせるとともに、対話から考えが深まっていることを伝え、実感させるようにする。	教職員2	A	100	29	71	0	0	
					児童2	A	94	35	59	6	0	
					児童3	A	94	47	47	6	0	
					保護者2	B	82	35	47	18	0	0
	読解力の定着	業間に読み取りを中心とした問題に取り組むなど、個に応じた指導を行い、読解力の向上と定着を図っている。 目標値：児童・保護者の90%が肯定 国語科と算数科の単元テストの平均正答率80%以上の個人が7割5分以上	B	◇毎週木曜日の学習の時間には、全校一斉に文章の読解力向上を目指し、国語科の読み取り問題に取り組んだ。初めて読む文章をしっかり読み、問題を解くことには少しずつ慣れてきた。また、週末の宿題で読解力のプリントを解く等、様々な文章を読み、解く機会を多くとるように工夫した。しかし、学力の個人差が大きく、単元テストの結果や児童、保護者アンケートからも、学習内容を十分に理解できていない児童がいることも分かる。 ◆極小規模校の良さを活かして、授業でも、家庭学習でも、個に応じた対応ができるように工夫していく。また、放課後の時間を利用して、個別指導を行い、基礎・基本の定着（特に漢字の読み書きと文章の読解力）を図る。	児童4	B	82	53	29	18	0	
					児童12	A	94	59	35	6	0	
					保護者4	B	88	29	59	12	0	0
					国語科の単元テストの平均正答率80%以上の個人が　6割　3分 算数科の単元テストの平均正答率80%以上の個人が　8割　1分							
	読書活動の充実	幅広いジャンルの本に親しむよう、読書活動の充実と工夫を図っている。 目標値：児童・保護者の90%が肯定 図書システムを活用したジャンル別読書量	B	◇新型コロナウイルスの感染対策を十分に行いながら、レッツゴーデーを実施し、週1回は必ず、図書室へ行き本を借りるように呼び掛けを行った。また、月毎に読む本の冊数の目標を児童自身に立てさせて読書活動の推進を行った。特に6月は、自分の立てた目標を達成しようとする児童が多くなり、読書意欲の向上が見られた。全校児童のジャンル別の読書量を見てみると、様々な本に親しんでいるように感じられるが、個人差があることが課題である。アンケート結果からも、同じ種類の本ばかり読んでいる児童や、ほとんど本を読まない児童もいるという現状がある。 ◆児童の読書量を1か月毎に調べ、学級担任に伝え児童の読書状況を学級担任が把握し、読書ができていない児童には、積極的に本を勧めて読ませる。また、週末に読書の宿題を出し、読書の時間を確保する。また、各学年の国語科で並行読書した本やブックランド委員会によるおすすめの本を紹介する機会を給食放送で取り入れ、本への興味・関心を高めていきたい。	児童5	B	88	41	47	12	0	
					保護者5	C	70	41	29	18	12	0
					図書システムを活用したジャンル別読書量 総記　24冊　哲学　16冊　歴史　10冊　社会 9冊　自然 21冊　技術　4冊　産業　7冊　芸術　57冊　文学　76冊　絵本　15冊　その他17冊 合計241冊							
豊かな心を育てる教育の創造	あいさつ・返事運動の推進	「明るく丁寧なあいさつ・返事」運動を家庭・地域と連携・協働して推進している。 目標値：児童・保護者・地域の90%以上が肯定	B	◇児童・保護者の肯定率が地域に比べると低くなっている。新型コロナウイルス感染症予防のため、マスク着用、大きな声を出さないという指導をしていることで、明るいあいさつができていないと捉えている児童もおり、肯定率が低くなったと考えられる。登校時、正門前では、明るく丁寧にあいさつをするなど、見守り活動をしてくださっている地域の方へはよくできている。返事については、授業中など公の場では高学年を中心によくできているが、どんな場でもできているとはいえない。 ◆マスクをした状態でも丁寧なあいさつができるよう、継続して指導をしていく。表情が見えないため、声の明るさが大切であることを声掛けしたり、教師が示したりするなど、その都度指導をする。返事については、特に、授業中は「できるまで」「何度でも」という意識を持ち、共通理解を図って指導していく。	児童6	B	88	47	41	12	0	
					保護者6	B	88	59	29	12	0	0
					地域1	A	100	73	20	0	0	7
	生命尊重の育成	道徳科や学級活動、体験活動等において、生命尊重の育成に努めている。 目標値：教職員・児童・保護者の90%以上が肯定	A	◇食育の取組は昨年度で終わったが、野菜を育てたり、カモを育てたり、学校のまわりで捕まえた生き物を育てたりする取り組みにより、児童は命の大切さを実感していると考えられる。また、そのような活動と関連させて、道徳や学活の授業を行うことにより、更に生命尊重の心情が高まっていると思われる。 ◆これからも継続して、生命尊重の心情を育てるような体験活動を行うようにする。また、3評価から4評価に上がるように、体験活動と関連させた道徳科や学級活動等を計画的に行うようにする。	教職員3	A	100	43	57	0	0	
					児童7	A	100	59	41	0	0	
					保護者7	A	100	59	41	0	0	0
	自尊感情の醸成	自分のよさに気付き、自分の大切さとともに他の人の大切さが認められることを実感できる環境づくりを行い、自尊感情の醸成に努めている。 目標値：教職員・児童・保護者の90%以上が肯定	A	◇児童・保護者・地域共に肯定率が9割を超えている。今年度の学校経営の重点として挙げ、各学級で自尊感情の醸成のための具体的な方策がとられている。また、縦割り班活動や児童会活動により、児童同士の関わりを多くすることで、児童が自分の頑張りを感じたり、友達から褒められたりする機会が増えたことが要因ではないかと感じる。 ◆少人数ではあるが、自分のよさに気付いてなかったり、友達に優しくできなかったりすると回答した児童や保護者もいる。今後も自尊感情の醸成の取組を継続して進めるとともに、小さなことでも気になる言動があれば素早い対応をしていきたい。	教職員6	A	100	57	43	0	0	
					児童9	A	100	47	53	0	0	
					児童10	A	94	41	53	6	0	
					保護者8	A	94	35	59	6	0	0
	特別支援教育の推進	障がいのある児童とその保護者のニーズや、児童一人一人の実態、発達課題に応じた合理的配慮の提供を行い、個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。 目標値：教職員・児童・保護者の90%が肯定	A	◇教職員・児童・保護者全てにおいて肯定率が9割を超えている。児童・保護者については、デジタル教科書の導入により興味・関心を持たせながら分かる授業を実践したことが高評価につながった。また、校内支援委員会を実施し、児童一人一人のニーズに合わせた個別の指導計画について共通理解を図ることができた。 ◆特別支援学級だけでなく、通常の学級においても、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるように、手立てを明確にしていく。さらに特別支援教育についての理解が深まるよう、保護者に対して定期的に特別支援教育だよりを発行したり、学校だよりに特別支援教育についての内容を載せたりするなどして啓発に努めたい。	教職員4	A	100	43	57	0	0	
					児童8	A	100	71	29	0	0	
					保護者9	A	94	65	29	6	0	0

令和2年度　中間期自己評価書

愛南町立長月小学校

評　価　規　準　　A：目標を達成　B：8割以上達成　C：6割以上達成　D：6割未満

評価項目		評価指標及び目標値（期待される姿）	評定	学校による考察（◇）　改善方策（◆）	評価資料	個別評価	肯定率 4＋3	アンケート平均値（100%満点） 4	3	2	1	？
豊かな心を育てる教育の創造	児童理解の充実	好ましい人間関係の構築と教育相談の充実を図り、いじめ・不登校等の未然防止・早期発見・早期対応に努めている。 目標値：教職員・児童・保護者・地域の100%が肯定	A	◇定期的な教育相談やアンケート、また、機会を捉えた教育相談を行うことで、問題の早期発見や早期対応に努めることができた。児童・保護者の中にいじめがややあると回答した方がいるので、さらに一人一人の悩みに寄り添いいじめの未然防止に努める必要がある。 ◆児童会が企画する全校遊びなど、児童同士のふれあいを積極的に取り入れ、好ましい人間関係作りに努める。また、教育相談やアンケートを通して知り得た情報を、児童を見つめる会などで情報共有しながら全教職員で指導に当たる。	教職員5	A	100	37	63	0	0	
					児童11	A	100	88	12	0	0	
					児童13	A	100	94	6	0	0	
					児童15	A	100	71	29	0	0	
					保護者3	A	100	71	29	0	0	0
					保護者10	A	100	88	12	0	0	0
					地域2	A	100	80	0	0	0	20
健康教育の推進	食生活の確立	学校・家庭・地域が連携・協働し、食べる力=生きる力を付けるために望ましい食生活の確立に努めている。 目標値：教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定	B	◇児童・保護者・地域の肯定率は9割以上である。しかし教職員の意見が下がりB評価である。食育推進校として昨年度まで活動していきた内容が、今年度は新型コロナウイルスの感染予防のため全て実施できていないことが大きいと感じる。長月地域は学校へ惜しみない協力をしてくださるので、その気持ちが4評価8割を示しているのだと感じる。 ◆「サロン」の方との協働調理や、給食指導の様子を家庭へ配信、家庭の様子を報告してもらう等の相互連携をするなど、感染予防に配慮した活動を実践する。各学級の栽培活動から「生きる力を付ける」ための体験活動を行いそれを言語化したり、給食放送で食材の産地や生産者の様子を知ったりすることで、食が自分たちの生活をささえていることを知る。	教職員7	B	86	14	72	14	0	
					児童14	A	94	65	29	6	0	
					保護者11	A	100	35	65	0	0	0
					地域3	A	100	80	13	0	0	7
	体力づくりの推進	児童の実態に応じた体育科の指導や朝マラソン、えひめ子どもスポーツITスタジアムへの参加、パーフェクト自己新記録賞の活用により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値：児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞（前年度との比較）	A	◇児童・保護者・地域共に肯定率が9割を超えている。新型コロナウイルスの影響で、学校再開後の児童の体力はかなり落ちていると感じた。感染予防対策をしながら体育科の授業（水泳含）や朝マラソン、えひめ子どもスポーツITスタジアムの種目「8の字ジャンプ」への挑戦をして、体力の回復ができたと感じる。 ◆新体力テストについては、1学期に実施することができなかったので、2学期に実施する。パーフェクト自己新記録賞を目指して取り組みたい。	児童16	A	94	65	29	6	0	
					保護者12	A	94	65	29	6	0	0
					地域4	A	100	87	7	0	0	6
					自己新記録賞（前年度との比較） 昨年度　4人（ 22%） 今年度　　人（　　%）※ 秋に実施予定							
	健康な生活習慣の確立	家庭と連携・協働し「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身に付け、健康的で望ましい生活習慣の確立に努めている。 目標値：児童・保護者の90%以上が肯定 健康観察結果	B	◇児童・保護者共に肯定率が8割を超えているが、目標の9割は満たしていない。朝食摂取は高いが学年に合った就寝・起床時間が習慣化できていない児童が多い。朝のチェック時に実際の時刻を確認した上で、各家庭の事情を連絡ノート等で把握している。 ◆今後、望ましい朝食の献立や朝食の必要性を指導する。就寝起床時間については、病気に負けない強い身体を築くこと、学力向上、精神的安定を図る上で睡眠時間の確保が重要であることを知り、実行できるよう保健だよりや放送で伝える。	児童17	B	88	65	23	12	0	
					保護者13	B	89	18	71	11	0	0
					＜健康観察結果＞ 朝　食　摂　取　　4～6月（89%）　7月（100%）※7月17日現在 起床・就寝時刻：全員守れた日　4～7月　4日（10%）							
安全・安心な学校づくりの推進	安全・防災・減災教育の充実	防犯・防災・交通安全等に関する実践的な訓練や学習会を通して、危機管理意識の向上を図り、自らの安全確保にために主体的に行動する態度を育成している。 目標値：教職員・児童・保護者・地域の90%以上が肯定	B	◇アンケート対象者すべての肯定評価の割合が高く、危機管理意識の向上が図られている。また地域の方から、登校時の見守り活動がしっかりできているという意見をいただいている。しかし、保護者の2評価が少しあることから、交通安全や生活安全に対する危機意識が十分に持てない児童がいることも分かる。これからも、命を守るためにはルールを守ることが大切であることを継続して伝える必要性がある。 ◆学校では継続して様々な対応訓練を行っていき、その取組をホームページや学校だより、学級通信で知っていただく機会をつくる。2学期は学校運営協議会を中心に、地域の方と一緒に防災について考える機会を設定し、地域全体の防災意識を高める。	教職員8	A	100	43	57	0	0	
					児童18	A	100	65	35	0	0	
					保護者14	B	88	41	47	12	0	0
					地域5	A	100	67	27	0	0	6
	情報モラルの育成	家庭と連携・協働しインターネットに関する正しい知識を養い、ネットワーク上でのルールやマナーなどの情報モラルの育成に努めている。 目標値：児童・保護者の90%以上が肯定	C	◇アンケートの結果から、家庭で決めた約束や時間が守れていない児童が多く見られる。新型コロナウイルス感染症による2か月以上の臨時休業中に生活習慣が乱れ、ゲームやインターネットの使用が増えたと考えられる。学校が再開した後も、休日のゲーム等の時間が多すぎる児童がいる。 ◆「我が家のルール」を今年度も作成してもらい、家庭でのルールの徹底を呼びかけていきたい。また、道徳や学級活動の授業を通して、情報モラルの育成に努めていく。	児童21	B	82	53	29	12	6	
					保護者15	D	53	6	47	47	0	0
	環境整備の充実	清掃や身の回りの整理整頓を主体的に行い、自ら学びの環境を整える態度を育てている。 目標値：教職員・児童の90%以上が肯定	B	◇教職員と児童の清掃への取組は肯定率が高いが、児童の身の回りの整理整頓への肯定率が満たしていない。児童の清掃場所への集合は早く、最後まで私語なく取り組んでいる児童が多い。5年生がリーダーとして下級生の良いお手本となっている。ロッカーの整理は、週末に定期的に行っている。机の整理整頓については、すぐに必要なものが出てこない児童がおり、学びの効率化を図るために整理整頓が大切であることに気付かせる必要がある。 ◆朝のボランティアや清掃をがんばっている様子を称賛し、気持ちよく働くことの良さを知ることで、勤労奉仕の精神を培わせる。ロッカーや机の整理整頓については、終わりの会で点検する時間を設けることで、乱れに気付いたり自分が整えたりする機会を作る。	教職員9	A	100	14	86	0	0	
					児童19	A	94	41	53	6	0	
					児童20	B	88	47	41	12	0	
教職員の資質・能力の向上	教職員の資質能力の向上	授業力や生徒指導力の向上を目指して、校内研修や自己研鑽に努めている。 目標値：教職員の90%上が肯定	A	◇本校の研究テーマに沿って、積極的に研修に取り組んでいることや、研修会でためになる資料を準備していただいたり、授業研究等の話合いが活発に行われたりしていることが、A評価につながっていると考えられる、しかし、3評価が多いのは、日々の忙しさで、思うように自己研修ができないためだと思われる。 ◆授業力や生徒指導力がさらに向上できるような充実した研修会を目指す。また、自分で研修したいことを明確にし、忙しい中でも、自己研修を行う時間を作る。	教職員10	A	100	29	71	0	0	
	組織力のある職場づくり	報告・連絡・相談・確認の習慣化を目指し、温かく、風通しのよい組織力ある明るい職場づくりに努めている。 目標値：教職員の90%以上が肯定	A	◇新型コロナウイルス感染症や大雨警報発表に対する安全確保を通じて、学校長を中心とした危機管理の重要性を学び、迅速な報告・連絡・相談・確認が十分にできたことが、A評価につながったと考えられる。また2校時と3校時の間の休み時間が20分あるため、職員室に全教職員が集えることで、情報の共有場面や会話が増えた。 ◆2学期以降も子どもの命を守るという責任を持って、迅速な報告・連絡・相談・確認を継続して行っていく。また、管理職を中心に、何でも相談できる、情報を共有し合える風通しのよい職場づくりを目指していく。	教職員11	A	100	37	63	0	0	
総合評価	学校運営協議会委員の所見	課題点である一つ目の「健康な生活習慣の確立」では、学校があるから早起きはできているが、ゲームやインターネットをするため早寝は難しい状態であることがうかがえる。親も起きているので子どもも起きているといった家庭も多いと思う。そこで、子どもが寝る時間には親もテレビやネット等をやめて、子どもが寝るまで責任を持って様子を見ることが必要だと思う。 二つ目の「情報モラルの育成」では、家庭においてインターネットやゲームの制限の決め方が難しい。ネットは正しく使うとよいことが多くあるので、制限するのは難しいからである。また、友達との通信を自分の家だけで規制しても相手があることなので難しい。ややもすれば、仲間はずれが起きかねない。そこで、学校である程度ルールを決めると、家庭も従うようになると思う。また、学校が宿題を多めに出すことで、ゲームの時間を少なくすることもよいと思う。そして、繰り返し「守ってください。」と家庭に呼び掛けるとよい。										